



*Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>*

短報

日本の中学校・高等学校における保健体育の新カリキュラム

New Curriculum for Health and Physical Education in Japan's Middle and High Schools

Nuevo plan de estudios para la salud y la educación física en las escuelas secundarias y preparatorias de Japón

Novo currículo para saúde e educação física nas escolas de ensino fundamental e médio do Japão

Tetsuji Kakiyama, Ph.D.
Universidad de Fukuoka, Fukuoka, Japón
<https://orcid.org/0000-0002-2014-1340>
Correo electrónico: kakiyamat@gmail.com

柿山 哲治

福岡大学スポーツ科学部
iD 0000-0002-2014-1340
電子メール : kakiyamat@gmail.com

要約

日本では、文部科学省が示す「学習指導要領」に基づき、全国一律の授業が行われている。最近では中学校が **2017** 年、高等学校が **2019** 年に最新の教育カリキュラムに改訂された。本研究は、日本の保健体育に導入されたカリキュラム変更的を **3** つの視点か



*Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>*

ら明らかにすることである。本稿では、日本の中学校および高等学校における保健体育のカリキュラムの最新の改革について言及する。

キーワード：保健、体育、学習指導要領

Resumen

En Japón, las clases se imparten de manera uniforme en todo el país sobre la base de los "Cursos de estudio" proporcionados por el Ministerio de Educación, Cultura, Deporte, Ciencia y Tecnología (MEXT). Los últimos planes de estudio se revisaron en 2017 para las escuelas secundarias de primer ciclo y en 2019 para las de segundo ciclo. El objetivo de este artículo es identificar los aspectos modificables del nuevo plan de estudios introducido para la salud y la educación física en las escuelas japonesas de secundaria y bachillerato desde tres perspectivas.

Palabras clave: Salud, Educación Física, Directrices curriculares

Resumo

No Japão, as aulas são ministradas uniformemente em todo o país com base nos "Cursos de Estudo" fornecidos pelo Ministério da Educação, Cultura, Desporto, Ciência e Tecnologia (MEXT). Os currículos mais recentes foram revistos em 2017 para as escolas secundárias inferiores e em 2019 para as escolas secundárias superiores. O objetivo deste artigo é identificar os aspectos modificáveis do currículo recentemente introduzido para a saúde e a educação física nas escolas secundárias japonesas, a partir de três perspectivas.

Palavras chave: Saúde, Educação Física, Orientações curriculares

Received: 5/07/2023

Approved: 23/11/2023



*Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>*

はじめに

日本では、運動不足による子どもの体力低下が社会問題となっており、体力低下による社会生活の不適応や学力低下などが懸念されている。各分野で目標が設定されている一方で、保健体育においては十分な安全管理を行いながら運動量を確保することが求められている。保健体育では、生涯にわたって健康を維持・増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を重視するため観点から、健康な生活と運動・スポーツとの関連を理解させ、心と体が密接につながっていることを実感させることが重要である。

展開

日本の学校教育において体育は常に重要な位置を占めてきたが、教員の世代交代と同時に学校内の教員の世代バランスも変化し、子どもたちを取り巻く環境も変化する中で、教育に関する様々な経験や知識をどのように継承していくかという課題も複雑化・困難化しており、従来のように学校だけにその実現を委ねることは難しくなっている。

2016年12月の中央教育審議会答申（2017）では、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会をつくる」という目標を学校と社会が共有し、学校と社会が連携・協働することで、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。社会に開かれた教育課程」を実現するためには、学校、家庭、地域社会が広く共有・活用できる「学びの地図」として機能するよう、以下の6項目について改善を図り、各学校において教育課程に基づく学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことが必要である。また、各学校においては、教育課程を軸とした学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが要請された。



*Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>*

その 6 項目とは、①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）、②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）、③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）、④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）、⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）、⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）である。

その結果、文部科学省は 2017 年 3 月に「幼児教育、初等中等教育及び高等教育の教育課程」、同年 4 月に「幼児教育、初等中等教育及び高等教育の特別な支援を必要とする学校の教育課程」、高等学校のは 2018 年 3 月に公表された。同時に、学校教育法施行規則の関連規定も改正された。文部科学省は、同法第 33 条および学校教育法施行規則第 52 条の規定に基づき、法律の性格を有する告示という形で教育課程を決定した。

したがって、教育課程に示された内容は、すべての子どもたちに教えられなければならない。また、必要に応じて、子どもたちや地域社会の実情や問題を考慮し、カリキュラムに含まれていない内容を追加し、教育課程に基づく教育活動を一層充実させることができる。各学校は、必要な範囲で基準を踏襲しつつも、創意工夫を加え、児童生徒や学校、地域の実情に即した教育課程の編成・実施に責任を持つべきである。これらの教育課程は 10 年ごとに見直され、中等教育学校では 2021 年 4 月に、高等学校では 2022 年 4 月に新しい教育課程が導入された。

日本の保健体育の目的は、"生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために必要な資質・能力を育成すること"である。新教育課程の特徴

は、保健体育の目的を 3 つの視点に分けていることである： 1) 知識・技能、2) 思考力・判断力・表現力、3) 態度・人間性。



*Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>*

日本の保健体育は保健分野と体育分野の 2 つから構成されている。また、体育分野は体育実技と体育理論から構成されている。現在の教育課程は、小学校から高校までの 12 年間を見通したものである。教育内容体系は、発達段階のまとまりを踏まえ、学校種間のつながりや視点を重視して編成されている。

個人生活における健康問題の解決を重視するため、中学校の保健は 4 つの内容から構成されている：健康な生活と疾病の予防」、「心身の機能の発達と心の健康」、「傷害の予防」、「健康と環境」である（文部科学省、2017b）。一方、個人や社会生活における健康問題の解決に重点を置くため、高等学校の保健は 4 つの内容で構成されている：現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じた健康」、「健康づくりのための環境づくり」である（文部科学省、2019）。

「保健」の技能については、心肺蘇生法等の応急手当を取り上げ、個人及び社会生活における健康・安全に関する基本的な技能を身に付けるよう指導することが必要であるとされている（文部科学省、2017b、2019）。

体育理論は中学校から始まり、意欲や思考力、運動能力の源となるものであり、その知識をしっかりと定着させることが重要である。それは、①スポーツの多様性、②スポーツの効果と安全な行い方、③文化としてのスポーツ（文部科学省、2017b）で構成されている。さらに、高校では、スポーツの重要性や価値を理解させるために、3 つの項目からなる単元となっている：(1)スポーツの起源と発展 (2)スポーツの学び方 (3)豊かなスポーツライフのデザイン（文部科学省、2019）。

体育の技能は、中学校（文部科学省、2017b）、高等学校（文部科学省、2019）ともに 8 領域で構成されている。体力づくり、器具を使った体操、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンスである。



*Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>*

中学校（文部科学省、2017b）と高等学校（文部科学省、2019）では領域名は同じだが、体育の授業では生徒の発達段階に応じて種目の内容が考えられている。

教育課程の改訂で最も注目されるのは、原則として、男女共習での授業が義務付けられたことである（文部科学省、2017b、文部科学省、2019）。日本では、男女の体力・筋力・技能の違いから、中学校や高等学校での体育の授業は男女別に行われてきた。しかし、日本の保健体育の目標は「豊かなスポーツライフの実現」であり、豊かなスポーツライフを送るために必要な資質・能力を育成するためには、体力・能力の程度や性別、障害の有無にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有できるようにすることが重要であることが新たに示されている。

結論

本研究のオリジナリティは、日本の中学校および高等学校における保健体育カリキュラムの改訂点を 3 つの視点から分析したことである。まずは、小学校から高校までの 12 年間の発達段階を踏まえ、指導内容をさらに明確化している。次に、体育と保健の分野をさらに連携させて指導するための指針を具体的に示している。最後に、体力・能力、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、運動やスポーツの楽しさを共有できるよう、共生の視点に配慮している。

参考文献

- ・ 中央教育審議会（2017）中央教育審議会答申。
<https://www.bunkei.co.jp/kaitei/images/chukyoshin2017.pdf>
- ・ 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説（平成 29 年度版）』保健体育、株式会社東山書房、東京。



Acción, Vol. 19 especial 50 aniversario de la UCCFD / publicación continua 2023, E-ISSN: 1812-5808,
<https://accion.uccfd.cu>

- 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示），保健体育，株式会社東山書房，東京.

利益相反の宣言 著者は、本論文に関して利益相反がないことを宣言する。

者の貢献 構想、形式的分析、研究、その方法論、執筆-原案、執筆-校閲-編集は著者による。